

文化生活部

bunka@kumanichi.co.jp
TEL:096-361-3181 FAX:096-361-3290

熊本市の出版NPO団体「伽鹿舎」が、昨年末に再出版したフランス小説「幸福はどこにある」(フランソワ・ルロール著)。小説が原作の映画「しあわせはどこにある」が19日に同市で再上映され、記念して小説の日本語訳を担当した翻訳家の高橋啓さん(62)＝北海道帯広市＝が初来熊した。トークライブもあり、翻訳家の仕事や再版の意義について語った。

「しあわせはどこにある」熊本市で再上映 原作小説を翻訳した高橋啓さん

高橋さんは、フランス小説界最高の名譽であるゴンクール賞作家、パスカル・キニャールの翻訳の第一人者。『博覧強記』とも言われるキニャールの10作品以上を手掛けてきた。仕事について「ほとんど大学の教師がやっていて、私は特殊なケース」と笑う。ただ「文学は生き物。大学に所属しては温室育ちになる」と厳しい。



「翻訳家の仕事は演奏家に似ている」と話す高橋啓さん
＝熊本市

たかはし・けい 北海道帯広市出身。早稲田大第一文学部卒。アルジェリアの現場通訳や翻訳会社勤務を経て独立。手掛けた翻訳は70作品に上る。2014年、ツイッター文学賞(翻訳部門)と本屋大賞(翻訳小説部門第1位)受賞。

翻訳で大切なのは「行間を読むこと」であり「どう読むか」。「自分の主観ではなく、作者の『根拠』が見えてくるまで読む」と話す。30年を超える翻訳のプロでも何種類も辞書を繰る。「語句の意味を調べるといっよ

り、作家が言葉をついとう意図で使っているのかつきとめる作業という。渡仏して原作者に確かめることも。そして「カメラのピントが合うように、作家と一体化した時」がくる。翻訳家は「演奏家」に似ている」と話す。「決していい作品がな

作家と一体化 行間読む作業

くなったわけではないが、いまフランス文学の本は売れない」と高橋さん。大手出版社が外国語文学作品を刊行するポイントについて「売れそうなもの、作家が人物、そして翻訳者の熱意」と指摘。名著の再版もままならない状況だ。だからこそ「幸福はどこにある」の再版は「奇跡的なことなんです」と強調する。

兵馬俑坑をイメージした会場。10体の兵馬俑



▲跪射俑の後ろ姿

▲跪射俑の足裏。滑り止めの模様まで忠実に表現してある

レプリカがずらり、高さ90センチのスロープからは、会場全体が俑坑に見えてくる。
※九州国立博物館特別展「始皇帝と大兵馬俑」は6月12日まで。